

令和4年度「知事と市町長の円卓対話」(川越町) 概要

- 1 対話市町 川越町 (川越町長 ^{しろた} 城田 ^{まさゆき} 政幸)
- 2 対話日時 令和5年1月20日(金) 9:45~10:20
- 3 対話場所 川越町役場2階大会議室 (川越町大字豊田一色280番地)
- 4 視察場所 朝明川、員弁川
- 5 対話項目
 - (1) 堤防補強及び河川内土砂撤去並びに雑木伐採伐根について
 - (2) 地域公共交通の維持・拡大に向けた支援について

6 対話概要

対話項目(1) 堤防補強及び河川内土砂撤去並びに雑木伐採伐根について

(町長)

これまでに三重県において、河川堤防強化工事、河川堤防改修工事を、海岸堤防においては、かさ上げ工事や老朽化対策工事を進めて頂きました。このように目に見える形で堤防の強化を進めて頂き、本当にありがとうございます。町民を代表して心からお礼申し上げます。

朝明川の法面下部に設置されている玉石積みについて、老朽化が進んでおり、部分的に玉石が抜け落ち、周辺の石積みが崩れていたり、石積みが孕(はら)んでいる箇所が多数あります。

このことから河川の増水時に堤防が決壊する一つの要因となるのではないかと危惧しているところです。玉石積みが崩れていくことに対し、堤防のり面の崩壊につながるのではないかと常に町民の皆さんは不安を感じています。

そこで、既設玉石積みの部分については、部分的な修繕ではなく、全面的にコンクリート張りによる堤防補強工事を行って頂きたい。

次に、朝明川はもともと河床が全面に見えている河川であったが、上流から下流まで土砂が堆積し、その堆積した土砂に葦や雑木が生えている状況になっています。

ドローンによる撮影でもはっきりと堆積の状況がわかりますし、近くで確認すると、過去に堆積土砂を撤去して頂いたが、葦や雑木の根の部分まで撤去されていないために、すぐに繁殖してしまっている状況にあります。堆積している高さは約2.2メートルにもなっています。

次に、員弁川についても年々土砂が堆積していることが確認できます。ドローン

による撮影では、大量の土砂が堆積し葦や雑木が繁殖しており、約 1.9～2.1 メートルの堆積が確認できます。雑木については、過去に撤去して頂いているが、伐採だけで伐根はされず、すぐに雑木が成長します。

私が町長になったときに、伊勢湾台風で甚大な被害が生じた地域のご年配の方から、堤防の雑木の伐採のため、のこぎりを貸してくれと言われました。雑木の生い茂る堤防に不安を感じてのことです。

堆積土砂により河道断面が減少し、葦や雑木により河川の流れが阻害されるなど、流下能力が低下し、越水や破堤の原因となることを危惧しています。早急に河川土砂の撤去と雑木の伐採伐根を行って頂きたい。

昭和 34 年の伊勢湾台風による被害状況についてお話をさせていただきます。(台風による)被害状況は、河川・海岸堤防が決壊し、9 割以上の町民や家屋が被災し、死者・行方不明者数は 174 名を出すなど、川越町はつらい経験をしています。

近年、各地で起こる台風、豪雨などの風水害に対し、町民の不安は大変大きくなっています。私は、皆さんが「笑顔で暮らせる」を実現するために、町長就任以来、「安全で安心な暮らしができる町づくり」を最優先で考え、第 7 次総合計画では、町の将来像を「つながる笑顔 ず〜〜〜っと暮らしたい町 かわごえ」として町政を進めています。

川越町は、北は員弁川、南は朝明川に接し、東には伊勢湾に臨み、町内ほぼ全域が海拔 0 メートル地帯であり、堤防に囲まれた町です。そのため、河川海岸堤防は町を守る最も重要な生命線と思っている。そういうことを知事にもしっかりと認識頂き、お願いしたいと思います。

3 点目として、上吉地区の海岸堤防の耐震対策工事を施工していただいているところですが、この工事期間は複数年を要すると聞いているが、南海トラフで発生する大規模地震については、30 年以内に発生するという確率が非常に高いといわれており、液状化の危険度も非常に高いと想定されることから、堤防の沈下による災害が懸念されています。

先ほども申し上げたが、河川海岸堤防は、川越町の重要な生命線である。いつ起こるかもしれない大規模な地震に備え、未だ耐震調査が進んでいない堤防についても早急に調査を進めて頂き、1 日でも早く、耐震対策事業が完了するようにスピード感をもって進めて頂くことを強く要望します。

本日お願いした事項は、全て川越町の目指すべき将来の地域の姿の実現に大きく影響するものばかりであり、防災・減災対策としても重要な取組です。

今後、三重県が進めるいろいろな事業のなかで、最重要事項として位置づけ、取り組んでいただきたいと思います。

(知事)

玉石積みについては、これが崩れると堤防が削れてくると伺っています。令和3年度、令和4年度にも補修工事を行っているところです。一気にやればいいが、順番もあり難しいところもあります。

また、コンクリートを張ってしまっているのかどうか。どんな風にすればいいのか。環境対策というのものもあるかもしれないし、そこは50年、川越町で行政をやっている町長の意見、あるいは住民の方々の意見をしっかりと伺ったうえで、緊急性の度合いなども見ながら、しっかりと対応させていただきます。

2番目については、私の地元の亀山市の安楽川も同じような状況ではありますが、川幅が違うため、朝明川、員弁川が氾濫したら大変なことになるというのはよくわかります。

以前に見せていただいたのは夏であり本当に木が生い茂っていた。今日は冬枯れをしていてまだ空間が見えたが、大水は大体夏に起きるものであり大変であるのはわかります。

先ほど申し上げたとおり、一気にやっしまえればいいが、工事量が膨大になります。また、藤原岳から大量の砂が流れてきます。これを全部取ってしまっコンクリートで覆ってしまうと、いろいろなことがあるので、今のやり方でやるしかないのですが、町長が言われたように、早めに施工してほしい箇所があればしっかりと対応させていただきます。現在も対話をさせて頂いて、どこからやるかを計画的に進めているところです。

平成22年から令和3年までに4万6千m³の堆積土砂を取っているが、取っても取っても出てくることからやるしかないので、しっかりとやっていきたい。

町民の方のお話はよくわかります。私は昭和38年生まれなので、伊勢湾台風の年には生れていなかったが、父や母、亡くなった祖父祖母から伊勢湾台風で逃げまどったという話を聞いているので町民の方々が大変な思いをされたことはわかります。その思いを風化させないことは大事だと思います。そのために、伐採伐根はなんとかしていきたいと思います。

今日の現場視察の後、県土整備部の次長とも話をしたが、伐根をできる箇所もあると思うとのことだったので、現場を見せて頂いたことは物凄く大きいし、町長からご説明を頂いたことは胸に伝わってきたので、これからも伐根をしっかりとやっていきたい。

伐根は全部やっしまえればいいが、水面下に根がある場合は、なかなか難しいところがあるため、その場合は伐採で対応していきます。

住民の方々の心配な箇所を聴き取って頂き、県に伝えて頂ければしっかり対応していきたい。

工事時期については、下流ののり養殖事業の方々などとの調整も必要となることから、できる期間が限られているようなので、そういったこともお話ししながら進めさせていただきます。

また、堤防の耐震対策も重要です。中・長期計画でつくったなかで一番大事なものは県民の命であると申し上げているところであり、これもそのひとつです。

ハザードマップをみると、川越町はほぼ全体が海拔0メートル地帯であり、高潮や津波がくると大変なところ。ただ、この地域は県北部であることから津波が一気にくるということはなく、おそらく避難はしていただける。加えて川越町では津波避難対策に尽力されており、津波避難タワーを作られているとのことなので、まず命を守る取組をされていることには、心から敬意を表すところです。

そのうえで、堤防の耐震対策についてですが、国の国土強靱化加速対策予算があり、それも使いながらやっていきます。この予算は当面（令和7年度まで）続くと思われませんが、その先も要望していきたいと思います。

川越町長、町民の方々の思いをしっかりと受け止めて対応していきます。

2. 地域公共交通の維持・拡大に向けた支援について

(町長)

当町は国道1号、23号、伊勢湾岸自動車道みえ川越インターチェンジなど、主要幹線道路を有し、また鉄道についても近鉄名古屋線川越富洲原駅が立地するなど、都市部へのアクセスが大変よく、交通の利便性が高い町です。

町内の移動手段である公共交通の現状ですが、路線バスは平成11年4月に廃止されており、町がコミュニティバスとして運行する「ふれあいバス」か、民間のタクシーに限られています。

「ふれあいバス」の運行状況については、現在、北コース、南コースの2つの路線を2台のマイクロバスが運行しています。運行日は日曜日、祝日、年末年始を除く月曜日から土曜日の午前8時から午後6時まで、概ね1時間に1便、1日8便の巡回運行を行っています。

また住民の方の生活に無くてはならない移動手段であることから、平成20年度に現在の運行形態による運行を開始して以降、運賃は無料を維持しています。

コロナ禍により近年の利用者は減少していますが、以前は年間約2万人を超える方が利用する日常生活には無くてはならない移動手段の一つです。

令和2年度にバスの利用者を対象とした「ふれあいバスの利用に関するアンケート

調査」によりますと、「特に不満はない」との肯定的な意見を頂いているものの、「目的地まで乗車時間が長い」「バス停までの距離が遠い」「運行本数を増やしてほしい」などの意見もいただいています。

また近年、高齢ドライバーによる交通事故が増加しており、運転免許証の自主返納に対する関心が高まる一方で、返納後の移動手段に不安があることから、運転の危険性を心配しつつも返納を躊躇する声も伺っています。

確実に高齢者が増えている現状で、高齢者が安心して生活できること、移動手段の確保など公共交通の充実が急務であることから、令和4年7月に「川越町地域公共交通会議」を設置し、現在の「ふれあいバス」の運行形態の見直しとともに、デマンドタクシーの導入に向けた検討を行っています。

三重県において、「三重県高齢者等の移動手段の確保に向けた地域モデル事業」として、市町等の行う事業に対しての補助制度があるものの、事業期間が令和2年度から令和4年度までの3か年の予定であると伺っています。

当町におきましても利用者の意見を反映した利便性のよい地域公共交通とするため、今後、新たな公共交通としてデマンド型交通の導入に向けた実証実験を進めていきたいと考えていますので、引き続き、「三重県高齢者等の移動手段の確保に向けた地域モデル事業」を継続して頂き、自家用車に頼ることなく、安全で安心して移動できる環境づくりのための支援をお願いします。

また、核家族化の進展等により、高齢者のみの世帯が増加しています。住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、日常の移動手段の確保が不可欠です。

知事の専門である交通施策の充実が、持続可能な地域社会の実現に繋がるものであり、知事が先頭に立って進めている人口減少対策にも通じるものと思いますので、新たな公共交通支援制度の創設をお願いします。

(知事)

(この問題については)どこの地域でも一緒です。わたくしの亀山でも全く同じです。

また、高齢者ドライバーの交通事故も問題になってきています。

これは行政、あるいは業界で何とか頑張っていかななくてはいけないということで、自動運転を進めているところですが限界があります。

その前にやるべきこととしては、公共交通の充実はおっしゃる通りです。

人口動態を考えると川越町は公共交通の維持はできる場所であると思っています。ただ、出だしのところで知恵を使っていかななくてはならないので、ベストプラクティスをお示しさせていただくことは大事だと考えます。

私が中部運輸局で自動車局長をやっていたときに、管内の岐阜の白鳥町や愛知県の三好町の好事例を集めて、ベストプラクティス集を作り、それを各運輸支局に配

布して、自治体の皆様に情報を渡してくださいということをやっていました。

いつまでたっても、こういうことをやっていかななくてはならない継続課題です。

県では、令和2年度から地域公共交通の移動手段の確保の地域モデル事業をやっています。

桑名や亀山、鳥羽など様々な取組を掲載した事例集を作成しているので、その地域にあった交通のあり方について取り組んでいきたいと思います。

コミュニティバスのルートは、役人が決めるとだいたい間違ふ。事業者と住民の皆さんが話し合い、ルートや運行本数を決めた方がうまくいく。

最近では、私が20年前にやっていた頃と違い、輸送の仕方が、頻度が高くなり、1回に輸送する人数が少なくいるので、バスではなくタクシーを使うというのもあると思いますし、そういったことをやっていただけたところもあると思います。

川越町ではオンデマンドタクシーの運用を検討いただくなど、前向きにやっているので、いい事例もご紹介しながら、川越町の住民の方々が喜んでいただけるようなものを一緒に作り上げていきたいと思います。

中部運輸局とも話をして、県だけで出来る話ではなく、ノウハウが中部運輸局に蓄積されているので、国、県、町の3者で話し合いをしながらいいものを作りたい。

ちなみに来年度の4月から交通関係の課を増やしたいと思っています。地域の交通の確保に力を入れていきたいと考えていますので、引き続き、よろしく願います。